

2020年度 第2四半期 決算説明会資料

JT Group CFO 見浪 直博

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。
※用語の定義については、スライド21以降に記載しております。

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・ニーズの変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等

2020年度 第2四半期実績

2020年度 第2四半期決算 全社実績

(億円)	2020年 1-6月	前年同期比
財務報告ベース		
売上収益	10,302	▲2.7%
調整後営業利益	2,876	▲0.1%
営業利益	2,520	▲19.1%
四半期利益	1,725	▲23.8%

売上収益

- 海外たばこ事業での増収はあるものの、その他事業での減収により減少
- コロナ禍影響については▲350億円程度と見立て（売上収益の3%強）

為替一定調整後営業利益：前年同期比 +7.5%

- たばこ事業・加工食品事業でコロナ禍影響を受けたものの、プライシング効果が上期に強めに発現したことによる海外たばこ事業の高水準の成長が牽引

調整後営業利益

- ネガティブな為替影響は当初想定よりも拡大し、為替一定での堅調なパフォーマンスを相殺

営業利益・四半期利益

- (-) 2019年度に発生した医薬の一時金収入の剥落
- (-) 金融損益の悪化

国内たばこ事業：数量実績

2020年 1-6月	RMC	RRP
総需要* (たばこTotal)	▲6.9%	市場占有率 約25%
	3%台半ばの減少	
JT販売数量*	342億本	18億本
(前年同期比)	▲8.6%	+4億本
SoS**	59.9%	約10%***
(前年同期比)	▲1.1ppt	前年同期 約8%***

* 国内市場のみを対象 **Share of Segment, カテゴリー内シェアを指す *** 実需ベース

© Copyright JT 2020

総需要

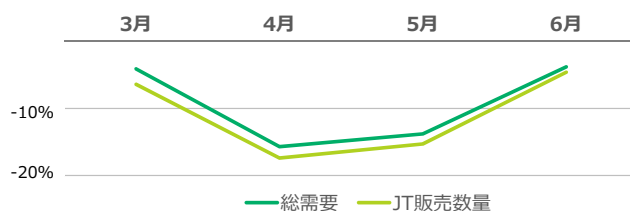
- RMC：緊急事態宣言発令下の4月・5月に大幅減
- RRP：前年同期比で増加。引き続きカテゴリーの伸長を確認

JT販売数量/シェア

- RMC：低価格帯競争により、前年同期ではシェア減少
 - 4-6月のシェアは前四半期と比べ上昇し、60%台に回復
- RRP：前年の新製品全国拡販効果により数量増
 - 販売数量は計画に対しインラインで推移

参考：月別のRMC数量 対前年増減率推移

- 4月・5月に大幅な落ち込みを記録したものの、緊急事態宣言解除後の6月は減少率縮小、3月の水準まで戻る

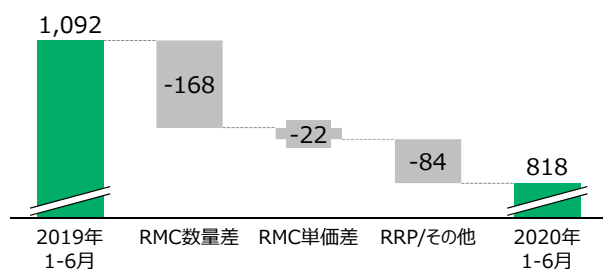


5

国内たばこ事業：財務実績

財務実績 (億円)	2020年 1-6月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	2,488	▲11.9%
調整後営業利益	818	▲25.1%

調整後営業利益ロードマップ (億円)



© Copyright JT 2020

トップラインパフォーマンス

- (-) RMC数量減少影響
- (-) ネガティブなRMC単価差影響
 - 19年10月の一部銘柄価格据え置き
- (-) RRP関連売上収益の減少
 - デバイス・アクセサリー販売減
 - 19年10月の価格据え置きによる影響
- (-) コロナ禍のトップライン影響は▲100億円強
 - うち国内免税・中国事業が半分程度を占める
 - 国内市場への影響は一過性のものが大半
 - ダウンレーディングは継続も加速の傾向は見られていない

調整後営業利益 増減要因

- (-) トップラインの減少
- (-) マーケティング投資強化

6

海外たばこ事業：数量実績

数量実績 (億本)	2020年 1-6月	前年同期比
総販売数量	2,119	▲4.8%
GFB販売数量	1,363	▲0.0%

主要市場でのシェア増はあるものの、コロナ禍の影響に加え、バングラデシュ・ロシア・トルコ等の数量減により減少

(-)

- バングラデシュ・ロシア・トルコ：増税値上を背景とした総需要・シェア減少
- コロナ禍による数量影響はネットでネガティブ
 - 免税市場でのコロナ禍による渡航者減が継続
 - 主に新興市場でのロックダウンによる総需要減

(+) 複数市場でのシェア堅調

- フランス・イラン・イタリア・フィリピン・ルーマニア・スペイン・台湾・UK等

GFB販売数量：

- 総販売数量が減少する中、様々な市場での堅調なシェア推移により前年同期同水準

Topics: ロシア市場について

- 経済状況の悪化、RRP拡大等を背景にRMC総需要の減少率が拡大
- 不利な価格差が継続しているものの、足元でのシェアは安定的に推移
- プライシングの着実な実行により損益面では適切にマネージ
 - 一部銘柄の機動的な価格調整を第2四半期において実施
- Ploom model Sを3月に発売し、デジタルでのアプローチ等で積極的に展開
 - デバイス・スティック等の配荷店数・展開地域も拡大

海外たばこ事業：財務実績

財務実績	2020年 1-6月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	6,261 億円	+3.1%
為替一定ベース	6,045 USDMM	+9.5%
調整後営業利益	2,143 億円	+15.6%
為替一定ベース	2,144 USDMM	+27.3%

プライシング効果が上期に強めに発現し、高水準の利益成長

トップラインパフォーマンス

- イラン・フィリピン・ロシア・トルコにおけるプライシング効果
 - 年初に想定していたプライシング効果の7割が上期に発現
- 数量差影響は総販売数量の減少によりネガティブ
- 売上収益へのコロナ禍影響は▲200億円程度

調整後営業利益 増減要因

(+) 堅調なトップライン成長

高単価市場である欧州の一部市場で引き続き好調な数量実績

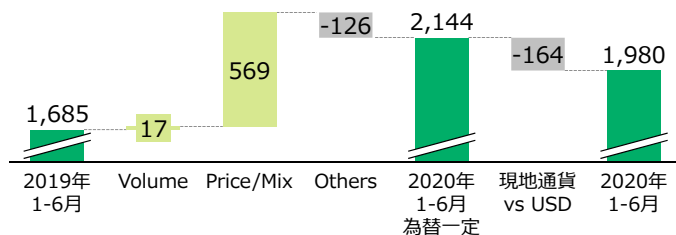
(+) コロナ禍に伴う事業活動の制限を背景とした経費の減少

(-) ブランド/RRP投資を中心とした販促投資を着実に実行、

GBS* 立ち上げ費用やデジタル投資の増加等のOpex投資の強化も実施

(-) IRR、RUB、TRY等の下落によるネガティブな為替影響

調整後営業利益ロードマップ (USDMM)



医薬事業・加工食品事業：財務実績

医薬事業

(億円)	2020年 1-6月	前年同期比
売上収益	373	▲45
調整後営業利益	79	+22

- 売上収益：海外ロイヤリティ収入の減少を主因に減収
- 調整後営業利益：研究開発費の減少及び鳥居薬品での増益により増益
- 新型コロナウイルスによるトップラインへの影響は軽微

加工食品事業

(億円)	2020年 1-6月	前年同期比
売上収益	718	▲36
調整後営業利益	3	▲13

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響継続を背景としたネガティブな要因がポジティブな要因を上回り、減収減益
 - 以下の業態では、特に外出自粛要請・緊急事態宣言発令時に大幅な需要減により、売上減少
 - ✓ 冷食常温・調味料事業の外食向け製品
 - ✓ パーカー事業
 - 冷食常温事業の家庭用製品については需要増により売上が伸長
- コロナ禍によるトップライン影響は▲40億円程度



2020年度
修正見込

2020年度全社業績：修正見込の前提と概要

コロナ禍影響の前提

- すでに発生している各国・地域でのロックダウンが段階的に解除される前提
- 第2波以降の影響（再度ロックダウン / 緊急事態宣言が発令されるような事態）は含まず
- 経済回復の軌道はU字型を想定
 - 経済活動への影響は、第2四半期をピークに徐々に縮小するものの年内継続

見通し

- 下期においても、たばこ事業を中心にビジネスモメンタムは底堅い
- 一方で来年以降については、以下を見極める必要
 - 経済状況・見通し
 - お客様の消費行動
 - 各国の規制・税制の動向
- 過去の事例を見ると、実際の経済動向から一定の期間を置いてたばこ事業のモメンタムへの影響が現れるリスクもあり

為替

- 足元の水準を踏まえ前提を見直した結果、当初想定よりネガティブ影響が拡大

資金調達に大きな懸念なし

1株当たりの配当金については、当初予想から変更なし

2020年度全社業績：修正見込

(億円)	2020年 修正見込	対当初 見込増減	前年度比
財務報告ベース			
売上収益	20,100	▲1,700	▲7.6%
調整後営業利益	4,570	▲460	▲11.4%
営業利益	4,220	▲490	▲16.0%
当期利益	2,860	▲190	▲17.9%
FCF	3,500	▲200	▲542億円

売上収益

- 為替影響を除けば、売上収益下方修正の主要因はコロナ禍に伴うもの
 - たばこ事業の数量前提を修正
 - 加工食品事業の外食向け製品の需要減も影響

為替一定調整後営業利益：前年度比▲1.3%へ下方修正

- 国内たばこ事業と加工食品事業の状況を反映
- コロナ禍によるトップライン減少の影響緩和に努めること、加えて医薬事業での上方修正が一部相殺

調整後営業利益・営業利益・当期利益

- (-) 為替前提の見直し
- (+) 税負担の軽減が一部相殺

国内たばこ事業

消費動向の変化

- コロナ禍に伴ってたばこ製品の消費場所・消費機会が変化
 - 特に緊急事態宣言下では一時的な喫煙所閉鎖等、喫煙行動に一定の制限が発生し、RMCの需要にネガティブな影響
 - 他方、外出自粛環境下でRRPの需要は増加
 - RMC/RRPトータルなたばこ総需要に対してネットでネガティブに作用したものの、緊急事態宣言下における一過性の事象が大半と分析。これは緊急事態宣言解除以降に概ね解消と見立て
- 一方でこのような変化の一部が趨勢減の拡大として残存と分析、推移注視

JTの新たな取り組み

- CLUB JTのプラットフォームを活用したデジタルマーケティング強化
 - EC等、多様化するお客様の購買動向にも対応

© Copyright JT 2020

数量前提*の見直し

- **RMC総需要：「8%台半ばの減少」に下方修正**
特に緊急事態宣言下での一時的なRMC総需要減少率拡大が影響
- **RRP市場占有率：「20%台半ば」から修正なし**
外出自粛環境下のRRP需要増
✓ 当初想定より拡大しているが上記範囲内
- **たばこ総需要：「約5%の減少」に下方修正**
- **RMC販売数量：「8%台後半の減少」に下方修正**
総需要減少率拡大を反映
- **RRP販売数量：「30億本台後半」から修正なし**

*国内市場のみを対象

13

国内たばこ事業

(億円) 2020年
修正見込 対当初
見込増減 前年度比

自社たばこ製品売上収益	5,100	▲300	▲10.4%
調整後営業利益	1,600	▲100	▲14.5%

• 自社たばこ製品売上収益：300億円下方修正

- 免税ビジネスが事業規模に比してコロナ禍によるトップライン影響大
- 国内市場における一時的な需要減が発生した上期実績を反映

• 調整後営業利益：100億円下方修正

- 免税ビジネスではトップラインの影響をダイレクトに受ける
- 国内市場ではコスト低減等によって影響緩和に努める

Topics：定価改定

- 10月のたばこ税増税に先立ち、本日定価改定についてリリース
 - 一部銘柄を除き、1箱あたり50円の値上を申請
- 以下のような要素を考慮
 - 定価改定後の需要減及びダウントレーディングの影響
 - 販売数量減に伴うコスト負担上昇
 - 品質やブランド価値の維持・向上への投資

© Copyright JT 2020

14

海外たばこ事業

コロナ禍を受けての販売動向の変化

成熟市場

- 失業率の上昇や可処分所得の減少などはあるものの、政府の経済対策等により消費者の経済的ダメージは一定程度緩和
- 一方でダウントレーディングの進行を確認、欧州ではFine cutが堅調に推移
- 第2四半期までの数量減少は、在庫積み増しの影響などもあり限定的

新興市場

- 厳しいロックダウン、消費者の可処分所得減少に伴う数量減やダウントレーディングもあり、成熟市場と比べ影響大

数量前提の見直し

- **総販売数量：「約6%の減少」に下方修正**
- **GFB販売数量：「約3%の減少」に下方修正**
 - ✓ 免税市場・新興市場等でのコロナ禍に伴う総需要影響
 - ✓ ロシア・バングラデシュ・トルコ等での数量減を反映
 - ✓ 欧州での堅調なパフォーマンスが一部相殺

海外たばこ事業

	2020年 修正見込		対当初 見込増減	前年度比
自社たばこ製品売上収益	11,700	億円	▲1,300	▲6.6%
為替一定ベース	11,600	USDMM	▲500	+0.9%
調整後営業利益	3,230	億円	▲380	▲5.2%
為替一定ベース	3,440	USDMM	—	+10.0%

• **為替一定自社たばこ製品売上収益：500USDMM下方修正**

- ・ 数量前提の引き下げ

• **為替一定調整後営業利益：「前年度比10%成長」から変更なし**

- ・ 売上収益の下方修正を、以下の要因が相殺
 - コロナ禍によるダウントレーディング進行の影響を、当初計画に織り込んでいなかった一部市場での値上げが上回る
 - コロナ禍でのオペレーションの制限によるコスト減
- ・ 下期の成長率が大きく減速する背景
 - 上期に強めにプライシング効果が発現する計画
 - コロナ禍での在庫積み増しの反動
 - 下期は着実に投資を実施する計画

• **調整後営業利益：380億円下方修正**

- ・ RUB、IRR、TRY等の弱含みを受けて為替前提を見直し

医薬事業・加工食品事業

医薬事業

(億円)	2020年 修正見込	対当初 見込増減	前年度比
売上収益	760	—	▲125
調整後営業利益	130	+30	▲29

- 売上収益は当初見込据え置き
- 調整後営業利益については、コロナ禍でのオペレーションの制限による、研究開発費の減少及び鳥居薬品の経費減を背景に、30億円上方修正

加工食品事業

(億円)	2020年 修正見込	対当初 見込増減	前年度比
売上収益	1,530	▲70	▲56
調整後営業利益	30	▲20	▲24

- 冷食常温・調味料事業での外食向け製品とベーカリー事業での弱含みを反映。売上収益を70億円下方修正
 - 外食向け製品とベーカリー事業のトップラインは、第2四半期で底打ち、徐々に回復の見立て
 - 冷食常温の家庭用製品については、下期は当初計画と同水準で推移する見立て
- トップラインの下振れを反映し、調整後営業利益も20億円下方修正



終わりに

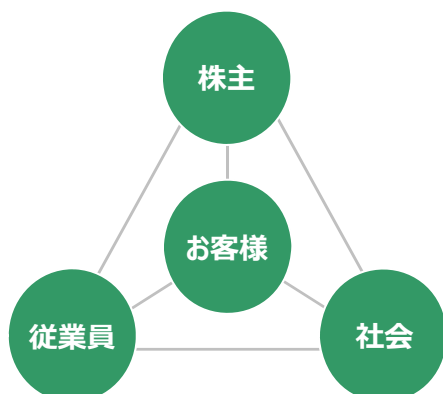
JTグループの社会貢献活動とコロナ禍における対応

- 経済・社会の持続性がある初めて、企業の持続的な成長が可能になる
- JTグループとしても、包摂的かつ持続可能な地域社会の発展に寄与することを目指した社会貢献活動を継続的に実施
- コロナ禍という緊急事態に際し、責任ある地域コミュニティの一員として、事業を展開する世界各地において
 - ✓ 感染拡大防止
 - ✓ 危機に瀕する地域社会からの要請等に応じた生活物資の支援や金銭的支援などの緊急支援活動
 - ✓ 感染拡大影響長期化による課題の解決
 - ✓ 今後のより良い復興にむけた支援活動に取り組む

主な取り組み

- コロナウイルス感染拡大防止、社会的弱者への支援活動に取り組む団体への支援
- 地域コミュニティへの物資提供
 - 食糧提供、生活必需品、衛生用品等
- 社員によるボランティア活動

Closing remarks



- 引き続き環境変化に柔軟に対応
 - 社会貢献活動も継続的に実施
- 年内は堅調な事業モメンタムを見込むものの、中長期視点でのコロナ禍影響を見極めるに当たっては、以下のような要素を勘案する必要あり
 - 経済状況・見通し
 - お客様の消費行動
 - 各国の規制・税制の動向
- 1株当たりの年間配当は当初予想から変更なし：154円
 - 中間配当は77円

<用語の定義>

調整後営業利益 (AOP) :	調整後営業利益 = 営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目 (収益及び費用)* *調整項目 (収益及び費用) = のれんの減損損失 ± リストラチャリング収益及び費用等
為替一定調整後営業利益 :	海外たばこ事業における当期の調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドル、円対ドルの為替レートをを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標
当期利益/四半期利益 :	親会社の所有者に帰属する当期利益/四半期利益
Reduced-Risk Products (RRP) :	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
GFB : (Global Flagship Brands)	Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド
総販売数量 : (海外たばこ事業)	水たばこ/E-Vapor/製造受託を除き、Fine Cut/Cigar/Pipe/Snus/Kretek/加熱式たばこを含む
自社たばこ製品売上収益 : (海外たばこ事業)	物流事業、製造受託等を除き、水たばこ、RRPの売上込み
為替一定ドルベース 自社たばこ製品売上収益/ 調整後営業利益 : (海外たばこ事業)	当期の自社たばこ製品売上収益/調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドルの為替レートをを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標

<用語の定義>

たばこ総需要 : (国内たばこ事業)	日本市場全体におけるたばこ製品の本数ベースの市場規模 (自社推計) RRPやリトルシガーを含む
RMC : (国内たばこ事業)	Ready made cigarettesの略
RMC総需要 : (国内たばこ事業)	日本市場全体における紙巻たばこの本数ベースの市場規模 (自社推計) リトルシガーを含み、RRPを含まない
RMC販売数量 : (国内たばこ事業)	国内免税販売中国事業の販売分を除く、JT紙巻たばこの販売本数 リトルシガーを含み、RRP等を含まない
RRP販売数量 : (国内たばこ事業)	国内免税販売分を除く、JTのRRPの販売本数 (1バック当たり紙巻たばこ20本として換算) デバイス/関連アクセサリ等は含まない
リトルシガー : (国内たばこ事業)	たばこ葉を原料とする巻紙を使い、紙巻たばこと同様の形態に巻き上げた製品。 たばこ事業法上「葉巻たばこ」に分類される
自社たばこ製品売上収益 : (国内たばこ事業)	輸入たばこ配送手数料収益等を除き、国内免税販売/中国事業/RRP関連の売上を含む